



子どもの未来のために

上北山中学校 大藤 優 先生

未来のために働くことのできるこの環境に、幸せを感じています。忘れ物が多い子どもが、提出物を期限内に出せた。不機嫌なときに八つ当たりしていた子どもが、ぐっと感情を抑えることができた。そんな子どもたちの成長が嬉しくてたまりません。しかし、「こうなってほしい」と思う私の、勝手な気持ちが満たされているだけなのかもしれません。これで本当によいのかと悩みます。私と関わったことで、将来子どもが少しでも幸せを感じたり、活躍したりしてこそ、その子のためになれたということなのだと思います。子どもの未来のために、決して甘くなく、誰よりもあたたかい教員になれるよう、子どもに負けずに成長していきます。



生徒に寄り添って

斑鳩南中学校養護教諭 藤田 明希 先生

保健室には、毎日のように体調不良や心の問題を抱えた生徒が来室します。その中でも、特に頻繁に来室する生徒は、心に何かを抱えている場合があり、話を聞くとぼろりと悩みを打ち明けることがあります。クラスの人間関係、親子間での問題、長い間誰にも話せなかった悩み等、なかなか人に打ち明けにくいことでも保健室という空間では話してくれます。生徒がクラスでは見せない一面を保健室で垣間見せてくれたとき、生徒との心の距離が縮んだようで、嬉しさを感じます。また、悩みが解決したときに、生徒と一緒に喜びを共有できるのも大変嬉しいことです。今後も、生徒の心の機微を感じとり、生徒の心に寄り添う教員を目指していきたいと思っています。



子どもと私の「ありの一步」

奈良東養護学校 山本 穂香 先生

私は4月から子どもたちの「ありの一步」をたくさん見てきました。「ありの一步」という言葉は私が特別支援学校の教員を目指すきっかけとなった言葉で、小さな一步だけでも、着実に成長している子どもたちの姿を意味します。毎日の積み重ねでできるようになったことなど、「ありの一步」は子どもの日常生活にたくさんあります。ですが、まだまだ子どもたちの一步を上手く引き出せないこともあり、そんな時は、周りの先生にもアドバイスをいただきながら、子どもと関わっています。この「ありの一步」は子どもだけでなく、私の成長のチャンスでもあると思います。子どもとともに、これからも「ありの一步」を着実な学びにつなげていきたいと思っています。



「やりたい」を実現するために

忍海小学校 向田 孝汰 先生

右も左もわからないまま飛び込んだ学校現場でしたが、今は先輩の先生方や保護者、子どもたちと関わる毎日が自分の学びにつながっていると感じます。そんな中、子どもたちの「これをやりたい」「やってみたい」という声が学級の中で飛び交うことが増えてきました。「子どもたちの気持ちを何とか実現させてあげたい」その一心で対応し続けると、興味をもって授業を受けたり、係活動に活発に取り組んだりする子どもの姿がよく見られるようになりました。私はこのような経験をし、子どもたちと共に授業や係活動を作っていく楽しさや大切さを少し学べたように思います。学校生活の中で子どもたちの「やりたい」を実現できる教員になれるよう、これからも頑張っていきます。